

第1回 大牟田市排水対策基本計画検討委員会

議事概要

議事

1) 令和2年7月豪雨の概要

江口委員：線状降水帯の予測は難しいと思うが、このような状態になる前に被害を想定して対策をとることはできないのか？

渡辺委員長：観測機器と観測地点等の研究の段階であり、現在の予測精度からは困難である。できる対策を進めていくことが必要。

事務局：九州北部の大雨は、空振り前提の早期避難の呼びかけが重要になるのではないかと考える。

柳田オブザーバ：過去の豪雨時と比較した場合、土地利用の違いから被害状況の違いが生じている可能性がある。土地利用の在り方、住まい方の工夫の議論には、過去のことから学ぶという観点も必要。

事務局：40年前と比較すると、宅地開発が進んでいることは間違いないと思われる。

2) 大牟田市のこれまでの取り組み

江口委員：災害が起こる前提で避難行動予測や避難場所の設置等を考えていくことも必要。

事務局：情報発信の在り方、避難の在り方についてのご指摘、アドバイスを頂けたらありがたい。

委員長：リアルタイム浸水深を把握できる監視カメラは何カ所あるか。

事務局：監視カメラは6箇所、水位計は河川ため池に13箇所、その他、県設置の水位計がある。

3) 今後の取り組み

委員長：当該地区の特徴と対策の方向性に関して、当該地区の特徴として干満差が大きく、満潮時には排水ができなくなる有明海の特徴を追記すること。

事務局：承知しました。

委員長：前項で避難所のご指摘があったが、避難所のトイレの問題はどの程度解決しているのか。

事務局：市内に避難所が48箇所あるが、そのうち地区公民館はトイレは洋式化済。学校についてはあと2~3年で完了予定。

池田委員：流域治水の観点からのため池の治水利用については、現在受益者が存在するものをイメージしているのか、それとも受益者が存在しなくなったものをイメージしているのか。

事務局：両者があると認識している。受益者の協力をお願いして実施できるものから慎重に実施していく予定である。

委員長：クリークで洪水を貯めた事例があると聞いているが。

池田委員：柳川の先行排水の事例は西日本新聞にも掲載された。筑後川大堰から取水できるなど、空振りの場合でも取水可能な地区は取り組みやすい。水が少ない場所での事前排水、先行排水は難しい面がある。

委員長：学校のオンサイト校庭貯留は取り組まれているのか。

事務局：学校関係の部署と協議を進めている。

江口委員：学校の校庭に降った雨で土砂災害が発生した事例もある。溜めるもの一つであるが、参考までに。

委員長：校庭貯留は比較的取り組みやすいやり方である。

以上